



## 第2回医療・介護多職種連携研修で MCS の説明とデモが行われました！

日時：令和元年11月20(水) 18時30分から20時30分 場所：サンフレッシュ白河会議研修室 参加者：43名  
令和元年11月20日(水)サンフレッシュ白河において郡山医師会理事でモミの木クリニック院長の福井 謙先生を講師にお招きして、第2回医療・介護多職種研修会が開催され、医師・看護師・介護支援専門員・薬剤師・介護士の方々が参加。研修テーマはMCS(メディカルケアステーション)について。

MCSは医療・介護におけるコミュニケーション連携・情報交換を実現するプラットフォームで、まず、その使用・操作方法について、プラットフォームを提供されているエンブレス株式会社の見藤 大様よりMCSの説明とデモンストレーションを行っていただきました。続いて福井先生より「MCSを実際に使用してみよう」という講演が行われました。

その後、MCS導入の課題などについて、MCSの記録が診療報酬のエビデンスとして認められるのか、また個人情報保護の観点からの課題について質疑応答がありました。

研修終了後のアンケートではMCS導入をしたい、導入したいがまだ早いという回答が73%に上り、MCSへの関心の高さが示されました。続いて、福島県薬剤師会 在宅医療推進委員の三科 龍平先生より「薬剤師のおためし訪問・同行訪問事業」について、参加者へ紹介なされました。



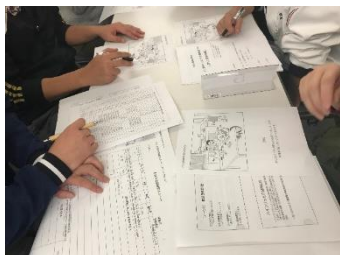
### 介護職員研修開催

令和元年11月12日(火)サンフレッシュ白河で福島県介護福祉士会副会長松本利一先生を講師にお招きして、介護職員研修会が開催されました。

研修テーマは「介護事故とは？ 介護事故予防に関する基礎的な知識」で、講義とグループワークが行われました。

講義では事故防止と再発防止の考え方、在宅におけるリスクをどう把握するかなどについて解説がなされ、グループワークでは食事介助の絵をもとに、どんな危険がひそんでいるか、その対処法についてグループ内で活発な意見交換がなされました。

終了後の参加者アンケートでは、「普段当然だと思っていることを、改めて見直す機会となりました」「事故については記録にきちんと残すことで利用者・家族とのトラブルを防ぎ、介護者自身も守るものということが分った」等の意見が寄せられました。



### 開催された出前講座

**テーマ：ACP講義(特養 聖・虹の郷様)**

令和元年12月6(金) 特別養護老人ホーム聖・虹の郷様で、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の研修会が開催されました。参加者は聖・虹の郷様で介護に携わる職員の方16名の参加があり、講師及びファシリテーターはACPLらかわコアメンバーが務めました。

白河地域在宅医療拠点センターの杉原常夫の講義の後、もしものための話し合いをする、そのきっかけを作るためのゲーム「もしバナゲーム」を4名一組のメンバー構成で行いました。ゲーム終了後のアンケートでは、「実際に認知症になる前から、早めに話しておく必要性を改めて感じました」「プライベートでも活かしたいが、家族の面談にまず活かして行きたい」など感想が寄せられました。

**テーマ：ACP講義(老健 ニコニコリハビリ様)**

令和元年12月18(水) 介護老人保健施設 ニコニコリハビリ様で、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の研修会が開催されました。参加者はニコニコリハビリや訪問看護ステーションで医療・介護に携わる職員の方中心に40名という多数の参加があり、講師及びファシリテーターはACPLらかわコアメンバーが務めました。

白河地域在宅医療拠点センターの杉原常夫の講義の後、もしものための話し合いをする、そのきっかけを作るためのゲーム「もしバナゲーム」を4名一組のメンバー構成で行いました。ゲーム終了後、「まずは家族などの身近な人と使ってみようと思いました」「まずは職場内で知識や理解を深めていきたい」「もしバナゲームのトランプカードはどこで購入できるか知りたい」等の意見・質問が寄せられました。

令和元年 11 月 18 日 第 32 回、12 月 16 日 第 33 回 ACP コアメンバーによるグループワークが、白河地域拠点センターで開催されました。

11 月 18 日のグループワークでは、グループ長の東光久医師のイントロに続き杉原副センター長から、老人保健施設への ACP 出前講座の進捗状況及び白河地域高齢者サロン向けの出前講座メニュー作成について説明がありました。

また今回は穂積彰一医師から 2015 年 9 月の国連サミットで採択された SDGs (Sustainable development goals: 持続可能な 17 の開発目標) について解説がありました。

図 1-2-15 SDGs 達成に向けた日本の現状の評価



続いて、もしバナゲーム白河版についての第 1 回ワークが行われ、参加者からさまざまな意見が出ました。

12 月 16 日のグループワークでは、杉原副センター長から、老人保健施設への ACP 出前講座の進捗状況が説明されました。その中で、穂積医師より、来年 1 月に実施予定の白河地方広域圏消防本部職員向け ACP 講座資料案の説明がありました。

続いて、杉原副センター長から ACPL しかわコアメンバー間の情報連携に MCS (メディカルケアステーション: 医療介護連携ネットワーク) を活用するための操作説明とデモが行われました。

令和 2 年度実施予定の高齢者向けサロンでは、メンバーから動画や漫画 (イラスト) を用いた分かり易い出前講座向けパンフレットや教材が必要との意見があり、今後、工夫していくこととなりました。

第 2 回目となる白河版もしバナゲームの検討ワークも行われましたが、次回、引き続き議題とすることとなりました。



ACP しかわコアメンバー

令和元年 12 月 13 日 (金) 白河地域在宅医療拠点センターにて県南 5ヶ所の訪問看護ステーションの看護師の方々にお集まりいただき、「MCS を利用して在宅医療の連携を図る」というテーマで講座が開催されました。

最初に、白河在宅支援診療所の穂積彰一医師の挨拶に続き、杉原常夫副センター長から、MCS の機能についての説明が行われました。

続いて、参加者に実際に MCS に登録していただき、その使用感などを体験していただきました。

最後に今後の MCS 活用についての総括が行われ、参加された看護師へ試験的な運用に向けて、「白河在宅医療チーム グループ」への実登録のお願いをしたところ、さっそく数名の方々から登録いただき、情報共有の基盤づくりが進みました。

### 「人生 100 年時代! 楽しく生きるコツ」講座

在宅医療と介護の在り方については、国の制度変更に対して一般住民の理解が追いついていない可能性があり、広く普及啓発を図る必要があります。

上記主旨に沿い、令和元年度県南地域在宅医療・介護連携推進事業住民向けセミナーとして、令和元年 11 月 25 日 (月) 矢吹町保健福祉センターにて「人生 100 年時代楽しく生きるコツ」というテーマで講座が開催されました。

主催は福島県県南保健福祉事務所、共催として矢吹町、白河地域在宅医療拠点センターが運営の実施にあたり、一般住民約 100 名の方々が参加されました。

講師は、白河厚生総合病院 総合診療科部長 東 光久医師、ひもろぎの園 施設長 風岡 都様が務められました。

それぞれ、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けるために」、「楽しく生きるコツ」についてお話しされた後、厚生労働省が推進している「週に 1 回以上、体操等の活動を行う住民運営の通いの場」につながるような簡単な運動を参加者に体験していただきました。

